

諏訪市美術館では、平成25年度から市内小中学校と連携した事業を続けています。

今年度は、四賀小学校（以降、四賀小）出身の作家・橋口優さんをお迎えし、6学年の皆さんと、制作、展示、鑑賞を展開する連携事業を実施しています。



こんなに山に囲まれている四賀小は、特別なところなんだよ、というお話がありました。



山の魅力をたくさん話してくれました。



四賀小学校がモチーフとなっている絵がたくさんあります。

いをした時に、山に登りたくなくて、諏訪地方に戻ったのだといいます。橋口さんは、山に登ることと、山に囲まれている諏訪地方と、四賀小が大好きということで、今回は四賀小6学年の皆さんにもそれぞれ登ってみたい山を作ってもらおう！という計画になりました。

四賀小学校連携展事前ワークショップ

「登りたい山を作って、 行ってみる」 レポート

2017.10.30、11.8

10/30、11/8に、橋口さんが四賀小を訪問し、制作ワークショップをおこないました。今回の、橋口さんとの連携のテーマは、「登りたい山を作り、行ってみる」です。

最初の授業は登山ガイドの山本さんをお迎えし、学校の裏にある神戸山に登る予定でしたが、季節外れの台風の影響で登山は中止とし、代わりに教室でお話を聞くことになりました。

諏訪は、周りをぐるりと高い山々に囲まれています。山本さんが生まれ育ったのは、青森で、標高が5メートルほどの海辺の平野だそうです。諏訪のみんなが住んでいる場所は、だいたい標高750メートル以上あります。普段いるところがもう山に登っているような高さです。これは全国的にも珍しいことなんだそう。住んでいると当たり前すぎて気づかないことや、山に登る魅力を沢山話してくださいました。

山に対する心構えができたところで、それぞれの山作りが始まりますが、その前に、橋口さんがどんな絵を描いていたかを写真で見せてくれました。

橋口さんの初期の作品に「学校シリーズ」という作品群があります。この作品群は四賀小学校とそこでの記憶がモチーフになっています。今でもある、音楽室の机や、校舎にある柱など・・・これらの絵はニューヨークで展示したこともあるとのこと。

橋口さんは、大学に進学するときに地元を離れ、東京へ出ました。それから10年ほど東京に住んでいましたが、うまくいかないことや、行き詰った思

山づくりは、新聞紙を丸めて山のかたちを作り、表面に和紙を貼って乾かし絵の具を塗るという工程です。

そしてその山に登っている自分を、写真で撮って小さくプリントし、取り付けます。どんな気持ちでどんな山に登るのか、それぞれ考えながら制作していきます。

今回作った山は、和紙でできています。いつも使っている画用紙とはちょっと違った感触です。橋口さんが和紙に絵の具をぬるときのポイントをわかりやすく説明してくれました。

最後に、色を塗った山にミニチュアの自分をつけます。そして自分がどんな山に登っているのか、その山に登るためには何を持って行くのかを登山届に記入して完成です。全員、橋口さんにアドバイスをもらいながら制作に打ち込みました。

今回制作された作品は、12/23（金・祝）から始まる展覧会「四賀小学校+橋口優-山と学校-」で展示します。展覧会では、橋口さんが四賀小で過ごした体験から生まれた「学校シリーズ」、山が身近にある暮らしを題材にした「山シリーズ」など最新作ほか、多くの作品も展示します。

四賀小6学年の皆さんと、橋口さんのコラボレーションをぜひ楽しみに。



どんな山にしようか考えながら形を作っていきます。



山のかたちが出来たら、表面に和紙を貼っていきます。



橋口さんにアドバイスをもらいながら制作します。



皆さんが作った山がどのように美術館で展示されるかも楽しみにしてください！



どんな山ができるでしょうか。